1/18(金)
化学工業
日報

売上高10%増へ
天然処方など訴求

薬で新市場を創
の増加など天候
、同社の売り上
県英社長は「昨
よって蚊が飛ば
今年は「台風な
までに殺虫剤の
製品の積極的な
みを目的に天然
製品を投入、前
を2月
。18年
は前年
億円の
蚊用や
%減と
ほか、
同7%
（ほか）

無添加のやさしさ、確かな効きめ。

着色料無添加の蚊取り線香「天然除虫菊 金鳥の渦巻き ミニサイズ」(左)と天然除虫菊成分100%のスプレー「水性キンチョー」

同9%減などすべての対象害虫別カテゴリーで市場が縮小、地域別にみてもすべての地域で前年を下回った。同社の殺虫剤事業も市場と同様に売り上げ減となった。今年は新規ユーザーの確保やインバウンドの需要獲得に向けた製品を充実するほか、テレビCMなども積極的に投入し、認知率を高めて殺虫剤分野で同10%増、家庭用品分野で同9%増の増収を狙う。

新規ユーザーの開拓を目指して投入するのは天然除虫菊成分のみを使用した「天然除虫菊シリーズ」2商品。子供やペットのいる家庭でも安心して使ってもらえるように天然成分のみの処方で、デザインも白を基調にした。18年の市場が約4・5億円と3年で約3・2倍に市場が拡大しているミニサイズで、着色料無添加の蚊取り線香「天然除虫菊 金鳥の渦巻き ミニサイズ」と天然除虫菊成分100%のスプレー缶「水性キンチョー」。

ダニシリーズでは、刺激が心配、べたつきが気になる、においがきついといった不満を解消、「天然由来成分、ワンプッシュで塗布量が少ない、無臭性」の「ダニコナーズ」を開発。アレルギー（喘息者）の割合が増えている子供にも使ってもらえることからベビー売り場でも商品紹介を行い、安心・安全の製品をアピールしていく。

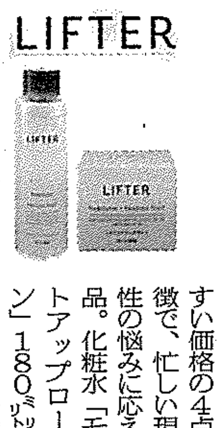
「虫コナーズ」ではプレートタイプも発売する。日本初の防除用医薬部外品で、半径1㍍以内での蚊忌避効果があり、使わないときにしまえるケースも付属する。

このほか厳しい市場環境でも売り上げを伸ばしたイカリジン製品「プレシャワー」やインバウンドで人気の「香RING」はラインアップを充実して認知率を高め、さらなる売り上げ増を目指す。

スキンケアで共同企画品
ロート製薬、サッドラと

ロート製薬は、サッドラホールディングスのグループ企業、サッポロドラッグストアー（札幌市）とコラボレーションし、共同企画品により肌印象を上げたい女性に向けたスキンケア化粧品「LIFTER（リフター）」（2品）を開発した。サッポロドラッグストアーが運営するドラッグストア「サッドラ」各店の専売品としてあす19日に発売する。

リフターは①ハリ・つやアップ効果②化粧水とモイストゲルの簡単2ステップ③リラックスできる柑橘系の香り④続けやすい価格の4点が特徴で、忙しい現代女性の悩みに応えた製品。化粧水「モイストアップローション」180㍉㍑入り1280円（税抜き）と「モイストアップゲル」50㌘入り1500円（同）で構成。顧客の声に応えたいというサッポロドラッグストアーと、培ってきたスキンケアの研究開発力を生かし、顧客の役に立ちたいというロート製薬の想いが一致した。



肌印象を上げたい女性向け

国内強化
次ぎ戦略商品

外だけ
育成に
で、花
品事業
役割を
したい
け、2
ドの特徴を体現する戦略商品を相次ぎ投じるほか、イメージキャラクターに女優の永野芽郁さんを起用し宣伝にも力を入れる。

戦略商品の第1弾として、「ウォータリークリーム」（税別希望小売価格3800円、50㌘）を2月1日に発売する。敏感肌の最大の悩みには「乾燥・かさつき」が挙げられるが、クリームは保湿性に優れながらも使用率が2割弱にとどまることに注目。「重さ」「ベタつき」への苦手意識があるためだ。そこで、肌に触れると水状に変わる「摩擦レス」のような使い心地と、ベタつかないのにうるおう高保湿を両立させた一品に仕上げた。

フリープラスは01年に発売。05年から中国でも販売しているが、15年に現地でSNS（交流サイト）などの影響により洗顔料「マイルドソープ」がヒットしたのを機に急伸中だ。18年売上高は16年比で3倍以上を見込む。内訳は中国を除いた残りの約2割が日本だが、その半分をインバウンドが占めるとみられる。国内はブランドにとって初といえる女優を起用した大々的な宣伝で存在感向上を目指すとともに、今秋をめどとした東南アジア導入も検討している。グローバル戦略ブランドとして、各国・地域でバランスの取れた展開を目指す。

イメージキャラクターに女優の永野芽郁さんを起用

賀詞交換

◇全国複合肥料工業会・全国肥料商連合会合同

16日午後、東京都文京区の東京ガーデンパレスで開催した。冒頭、全肥商連の山森章二会長が「昨年、価格問題があった。潮目が変わったと感じている。スマート農業は農業を変えると直感している。この流れにわれわれの業界も乗れるようにがんばっていく元年となることを心から祈念している」とあいさつ。来賓として斉藤健衆議院議員（前農林水産大臣）、農林水産省の枝元真徹生産局長、大臣官房の小川良介審議官（兼消費・安全局）、経済産業省製造産業局の湯本啓市素材産業課長が祝辞を述べ、複肥工の松田年郎会長（日本肥料社長）の乾杯の音頭で、歓談に移った。賀詞交歓会に先立ち斉藤健議員による特別講演会が行われた。

大森 茂 新理事長に聞く
技術販売員の育成強化
農産物輸出のサポートも

―　就任の抱負を。

「国内の農業・農薬を取り巻く環境は、担い手の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の拡大など厳しい。組合員の動向も地域密着型で今までの延長線上で物事を考える組合メンバーや、農薬流通業界として変貌していこうと事業規模拡大・広域化を進めているところ、コスト低減に努めるところ、安全対策に力を注ぐところなど多様性に富んできている。約150社が加盟し、それだけにニーズもさまざまである。宇野彰一前理事長の時から全農薬は今のままでよいのかという議論を重ねてきたわけだが、それぞれの変化に向けたニーズに対応していけるように、柔軟性に富んだ取り組みを進めたい」

―　力を注ぐことは。

「行政の動きに注目し、発信される新しい情報をかみ砕いて正確に分かりやすく組合メンバーに伝える。農薬取締法の一部改正には再評価制度の導入、農薬使用者への被害防止対策、生活環境動植物への影響評価が盛り込まれ、ある意味では転換期になるといえる。良質な日本の農業生産を維持していくため、現場の声をメーカーや行政に伝える橋渡しとしても機能できると思っている。全農薬では変化へ対応できる体制に向け近未来ビジョンづくりを行っている。組合メンバーの要望を聞き、現状分析はほぼ終わった。提起された課題について「近未来構想委員会」を立ち上げ、2年間かけ実のあるものにしていきたい」

―　付加価値を高めるため強化する活動は。

「農業生産者との接点が非常に強いというメリットが当組合メンバーにはある。そこで技術販売に力を入れている。そのため技術販売員の育成を強化している。内部関連組織である教育安全委員会がまとめる全国農薬安全指導者協議会（安全協）で育成された農薬安全コンサルタントリーダーが現在120人以上にのぼり、コンサルタントも多数揃っている。リーダーは生産者と非常に良いコミュニケーションを図り、現場で頼もしい存在となっている。最終的には農薬の処方箋が組める能力の高い技術販売員を増やしていきたい。現場での営農指導にとどまらず、農水省の農産物輸出サポート補助事業の受け入れ窓口の全国植物検疫協会（全植検）に協力し、輸出サポーターにも登録されている。相手国の農薬基準に合わせ使用できない農薬を外すなどして防除プログラムを組み、安全・安心な農産物輸出を支援している。こうした取り組みを強化することが一歩一歩、農薬販売における商系ルートの拡大につながっている」

―　スマート農業への関心は。

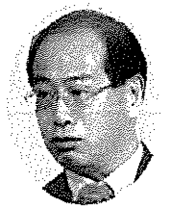
「農業生産者の労力削減が最も重要だ。当組合としてはスマート農業に興味はあるが、先端領域であるがゆえにデータを積み重ね、取り扱い経験が必要と考えている」

―　消費者とのリスクコミュニケーション活動はどうでしょうか。

「消費者に農薬を正しく知ってもらう目的で毎年「農薬シンポジウム」を開催している。全国3カ所を選び、各都道府県の方をはじめ生協などのご協力を得ながら、とくに若い女性の理解を得ようということに注力しながら取り組んでいる。18年は富山、秋田、熊谷で開催し、2会場では参加者300名を超え盛況だった。19年は三重、和歌山、香川の3カ所での開催を予定している」

（聞き手＝髙橋善治）

また〝飛ぶ〟季節です 花粉症 エステーがセミナー



王教授

花粉の飛ぶ量が増える憂鬱な季節が、また始まろうとしている。花粉症に対するさまざまな治療薬が開発され、対策ケア商品・グッズが多く販売されているが、エステーは16日、最新の花粉症研究と同社が開発した空気浄化作用に優れる香り成分「クリアフォレスト」の花粉に対する作用について都内でセミナーを開催した。花粉研究の第一人者である埼玉大学大学院理工学研究科の王青躍教授が「花粉が大気汚染物質と結びついて凶悪化」するメカニズムや期待される対策などについて説明。エステーグループの日本かおり研究所の金子俊彦社長は、クリアフォレストの花粉症に対する機能と、さらなる機能効果への期待について紹介した。

大気汚染物質と結びつき凶悪化

王教授は「山間部より都市部に花粉症患者が多い」とし、その理由として花粉が飛散している間に大気の汚染物質と結合して爆発することでのアレルゲン飛散量が増えることを発見、小さな花粉となることで、より体内に取り込まれやすくなるとした。また大気汚染物質と結合することで体内の抗体との結合性が高まる（アレルギー性の増大）ことも確認。「花粉が凶悪化」し、大気汚染物質による発がん性を高める要因にもなると懸念を示した。

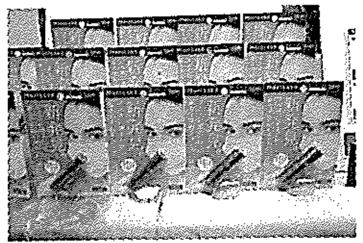
花粉症対策としては、花粉アレルゲンによるアレルギー反応の軽減を挙げ、エステーが事業展開しているクリアフォレストを用いた研究では、花粉アレルゲンのアレルギー性の低下、細胞に対する毒性の低減、大気汚染物質により凶悪化した花粉への効果を確認した。クリアフォレストは北海道のトドマツから抽出した精油で、自然や環境に優しい点にも触れた。

トドマツ成分に優れた防御機能

金子社長からは、森林に二酸化窒素が少ないことから、その空気浄化機能について研究を進めてきた結果、トドマツの葉から抽出した精油、とくにβフェランドレンなどのモノテルペンに高い二酸化窒素除去能力があることを見いだし、さまざまな効果を検討していることを紹介。クリアフォレストについては、花粉をコーティングすることで抗原抗体反応を起こりにくくしているというメカニズムを示した。

日本気象協会の花粉飛散予測によると、2019年春の花粉飛散量は、全国的に多かった昨年と比べると少ないが例年より「やや多い」という。16年度に実施された花粉症実態調査によると都内（島しょ除く）のスギ花粉症の有病率は48.8%。約2人に1人が花粉症に悩まされているといわれる。

エステーでは、クリアフォレストを用いたヘルスケア製品ブランド「MoriLabo（モリラボ）」を立ち上げ、第1弾の商品として花粉対策製品「花粉バリアスティック」を昨年12月12日に発売した。マスクの外側に塗って浮遊する花粉のアレル物質の働きを低減するスティックタイプ製品で、従来品と異なるメカニズムで機能を発揮する新しい花粉対策を提案している。自社展開のみならず原料販売も行っており、オープンイノベーションによる一段の事業拡大を目指している。



花粉バリアスティック